



日清貿易對スル金融機關建設切要





大正十一年四月
陸侯爵郵寄贈

日清貿易ニ對スル金融機關建設ノ切要
 我對 清貿易ハ不振萎靡、聲ヲ以テ充タサル然
 レ此是特ニ我商民、彼地ニ於ケル状態ヲ言フ
 モノニシテ兩國間ノ貿易ハ未タ曾テ退歩シタ
 ルヲナク年ヲ逐フテ其額ヲ増加セリ即チ明治
 二十一年ニ於ケル日清間輸出入ノ總額ハ二千
 一百七拾八萬圓ニシテ二十五年ニハ三千九百
 拾四萬圓トナリ二十九年ニハ六千四百貳拾六
 萬余圓ニ上レリ(但支那香港) 殊ニ彼我ノ貿
 易ハ漸ク傾境ニ入ルモノニシテ近數年來彼ノ
 未製品ヲ輸入シテ我半製品ヲ輸出シ若クハ我
 機械類ヲ輸出シテ彼硬貨ヲ輸入スルカ如キ恰

モ歐米諸國カ從來我ニ對スルト同一ノ姿勢ヲ
取ルモノナリ況ニヤ我國カ工業製造國トシテ
ハ清國實ニ唯一ノ顧主タルヲ言フヲ竝タス我
國人カ小成シタル文明ノ技術ト經驗トヲ大陸
的ニ應用セシハ亦唯清國ニ在ラスヤ吾人カ對
清貿易上ニ負フ所ノ運命モ亦多望ナリト謂フ
ヘシ然リ而メ廿七八年ノ戰役ハ下ニ速フル各
種ノ狀態ニ於テ之カ開發振作ノ上ニ至大ナル
一新機運ヲ作りタルモノナリ

一 通商航海條約ノ締結

馬関條約締結以前ニ在テハ我國ハ清國ニ
向テ最惠均霑ノ條項ヲ有セサルカ爲一例

ヲ舉クレハ全清二十又四ノ開港場中我商
民ノ居留貿易ヲ行ヒ得ルハ其十四港ニ過
キス其他歐米人カ既得ノ權利條項ヲ我ハ
只垂涎傍觀ノ地ニ立テルヲ夥多ナリシニ
馬関條約ノ一締結ハ只ニ歐米人カ既得ノ
條約ニ均霑スルノミナラス新タニ内地ノ
四港ヲ開カシメ揚子江ノ上流及上海ヨリ
蘇杭兩州ニ達スルノ航通權ヲ獲機械ノ輸
入、工業製造ノ自由ヲ約定シ又内地税ノ制
限ヲ確定シタルカ如キ歐米人カ十數年來
幾タヒカ成サントシテ成シ得サリシヲ一
朝ニシテ遂ケタルハ我國際貿易ノ上ニ於

テ實ニ偉大ナル直接成功ト云ハサルヘカ
ラス

一 清國人心ノ轉移

政治上海日本ノ文明ハ模倣虛浮ノ文明ナリ
トシテ我ヲ輕侮シタルニ廿七八年ノ戰役
ニ由リ歷然タル成敗ノ實際ニ就テ深ク悞
信ノ迷謬ヲ悟リ續テ三國同盟諸國カ干涉
ノ舌根ヲ及シテ無厭ノ要求ヲナスヨリ益
ス我ヲ懷ヒ我ニ依ルノ傾向ヲ助長シツ、
アルカ如ク經濟上海日本ノ技術工藝百般ノ
物質的進歩ニ信用ヲ措カサリシ清國カ日
本ノ戰勝ハ單ニ陸海武器、歐州列強ニ讓

ラサルノミナラス其機械技術運輸金融商
工百般ノ物質及組織ニ於テモ成功シタル
西法ノ輸入者タルヲ信認シ傲慢ナル異
人種ノ壓迫屈辱ノ下ニ實業經濟ノ發達ヲ
圖ランヨリ同文同人種ニシテ對等友誼ノ
交際ヲナス日本人ト親和協同ノ間ニ之ヲ
經營セントノ傾向希望ヲ發現シ政治上ノ
態勢ト一樣ノ步調ヲ以テ月ヲ追ヒ年ヲ重
子テ其感情ヲ進メツ、アリ是豈戰役カ與
ハタル無形ノ間接成功ニ非スヤ
然ラハ則チ日清貿易果シテ開發スルカト云フ
ニ顧ミテ戰後ノ實際ニ徴スルニ新開港地ニ於

ケル領事館ハ開設セラレ居留地ハ設定セラレ
新條約ハ實施ノ期ヲ超エテ既ニ一年有餘ヲ経
タル今日我商民ハ尙存蹙脚ヲ裏ムノ觀アリ是
我國力戰後大ニ支那ニ向テ貿易擴張ヲナスハ
シト待構ヘタル歐米人及清國人ノ竊カニ控ム
所ニシテ亦我國人カ省ミテ自失セサルヲ得サ
ルモノニアラスヤ思フニ貿易ヲ盛ナラシメン
ニハ亦必要ノ設備ヲ缺クヘカラス而メ其設備
ノ尤必要ナルモノハ即チ銀行ヲ設立シテ以テ
資金ノ供給ヲ便ニスルヨリ急ナルハナキナリ
彼ノ歐米ノ東洋諸國ノ貿易ヲ營ムノ術ヲ察ス
ルニ其樞要ノ地ニ於テハ先ツ銀行ヲ置キ以テ

資金ノ運用ヲ便ニシ巨額ノ資本ヲ擁セサル者
ト臣比亦為替ノ作用ニ依リテ貿易ヲ營ミ以テ
利益ヲ得ヘカラシム故ニ其貿易盛ナラサラン
ト欲スルモ得ヘカラサルナリ熟ラ日清貿易ノ
既往ニ徴シ現在ニ察スルニ兩國貿易ノ開發ハ
今又只金融機關ノ建設ヲ待ツモノニ似タリ金
融機關ニシテ一タヒ建設セラレシカ條約ノ改
善人心ノ悞和ト相俟ツテ兩國ノ際貿易ノ上ニ
一新生面ヲ開クヘク而メ今日ハ實ニ其唯一ノ
時機タルニ似タリ

第一

銀行建設ニ就テノ目的
輸出入品荷為替

輸出ニ於テハ綿糸、綿布ヲ首トシマツテ、
海産、石炭、材木及諸機械類輸入ニ於テハ
綿花、繭、獸毛、皮革及大豆、蔴等其重ナルモ
ノナリ 従来荷為替ノ便十分ナラサル
為彼地ニ輸出シタル後投賣ヲナシ又ハ
内地ニテ清商ニ賣萌ス等之カ為需用地
ノ市價ヲ低落セシメ内地ノ製造ヲ沈滞
スル等貿易ノ支障尤少カラズ現ニ昨年
未紡績業者マツテ業者ノ困弊ノ如キ即
チ是地今ヤ内地ニ勸業銀行ノ設アリト
虽此苟クモ海外ノ敗路ニ貿易ノ機關備
ハラサルハ偏跛ノ行動ノミ

芽二

清國ニ於ケル日清兩國人協会ノ企業ニ
信用融通ノ便ヲ與フル

紡績、製絲等ノ如キ機械的製造工業、鑛山
ノ開掘、鐵道ノ布設、若クハ殖産上理化技
術ノ運用ニ關スル各種ノ事業ハ本邦人
ニ依リテ幫助開導セラルヘク其本邦人
ト清國官民トノ間ニ合同經營セラル
モ、ニ向テハ務メテ信用融通ノ便ヲ與
ヘ其發達ヲ助ケル

芽三

支那内地為替
上海ヲ幹部トシ臺灣各港ヲ初メ支那ノ
中部及南北ノ各要港ニ支店又ハ出張店

茅四

ヲ設ケ專ラ清人内地ノ各銀莊、辨ト為替
取組手形割引等ノ業務ヲナス
預金及貯金
通常領金并ニ我郵便貯蓄法ニ倣ヒ貯金
事務ヲ開始推廣スル

(備考)

從來清國ニハ郵便貯金法ナク又專門
ノ貯蓄銀行ナルモノナシ良賈深藏如
虛ノ古諺ノ如ク金銀ハ總テ秘密ニ庫
底又ハ土中ニ藏匿シ只人ノ之ヲ知ル
ヤラントヲ怕ル政府ニシテ之ヲ知ル
件ハ御用金ヲ命セラレ人民ニシテ之

ヲ知ル件ハ強奪セラレ、憂アリ其
細民ノ藏匿法ニ窮スルモノ或ハ之ヲ
土地ノ富民ニ托スルハ富民ハ又之ヲ
床下ニ埋藏スルト云フ有様ナリ然ル
ニ營利ニ長ケ貯蓄心ニ富メル人民ノ
事トテ毎朝花ヲ賣テ街上ヲ廻ル一婦
人ニシテ家ニ數百金ヲ蓄ヘ理髮屋ノ
一番頭ニシテ身ニ千金ヲ積メルカ如
キ我國人ノ想像ニ及ハサル所ナリ殊
ニ一般ノ人民習俗ノ上ヨリ冠婚喪祭
ヲ重ニスルカ故ニ平生ノ貯蓄ハ右ノ
四禮ニ備ヘ各人各個ニ殆ニト一種ノ

義務トシテ習慣的ニ養成セラレル
是等ハ真ノ所謂貯蓄ニテ曾テ子母利
殖ノ道ナク況ニヤ之ヲ信用機關ノ中
ニ入レテ社會ノ經濟ヲ助クル才ヤ然
レ氏今支那人ヲ導クニ銀行貯蓄若ク
ハ郵便貯金ノ法ヲ以テシ彼等カ大小
各個ノ貯蓄ヲ信用機關ノ中ニ投入セ
シムルニ於テハ其貯蓄者ヲ益シ保セ
テ社會經濟ヲ利スルノ大ナルハ固ヨ
リ疑ヲ容レサル所ナリ只清人ノ狐疑
ノ念ニ強キ其端緒ヲ開テ一般ノ安心
ト信用ヲ買フ迄ハ此業ノ創開實ニ困

難ナルヘキカサレハトテ此一事ハ支
那人ノ銀行若クハ支那政府ニ由テハ
現今ノ國情ニ徴シ到底成功スヘカラ
ス又外人ノ手ニ由テ創開スルモ亦成
功ヲ期スルヲ難シ矣時惟ハ我國人カ
成績ヲ攀クヘキ望アリ其開導獎勵ノ
一便法トシテハ貯金預金ニ對シ抽籤
ヲ以テ割増金ヲ付與スルノ方法ヲ用
ヒ清人カ投機的僥倖心ニ依リテ開發
利導スルノ手段ニ出ルハ尤妙ナラン
而メ先ツ之ヲ福建廣東上海等ノ開港
場及其附近ノ地ニ行ヒ漸次内地ノ各

所ニ推廣スヘシ此方法ニシテ果シテ
好成绩ヲ得ルハ仮ニ江蘇一省ニ通
行スルト見テ其人口ハ三千七百八十
四万之ヲ我國民昨年ノ郵便貯金高（
銀行貯金ヲ除キ）二千六百六十八万
余圓ニ対シ人口ニ應シ略ホ同額ノ貯
金ヲナスモノトスレハ無慮二千万円
ノ上ニ出ヅ况ンヤ江蘇浙江地方ノ如
キ其富貴ヨリスレハ之ニ倍スヘク若
シ之ヲ本部十八省ニ通行スルト七八
其金額ハ實ニ莫大ノ額ニ上ルヘシ而
メ此外又彼海外出稼人カ其本國ニ送

入スル所ノ金額モ約四百万人トシテ
少クモ年々三千万弗ニ下ラス此一種
ノ金額モ亦此為替貯金法ニ依ラシム
ルヲ得ヘシ果シテ此等ノ資本ノ信用
機關ノ中ニ入ルハ用ヒテ以テ清國
財政ノ整理ニ充ツヘク又以テ鐵道布
設ノ資ニ充ツヘシ或ハ又運用ノ如何
ニ由リテハ臺灣ノ經營之ニ由テ成ス
ヘク我國外資ノ輸入モ独リ歐米ニノ
ニ依ルニ及ハサルヘキカ只此業ハ之
ヲ實行スルニ當リテ尤精細ナル考慮
ト方法トヲ要シ其成功モ自ラ年月ヲ

要スルモノタルハ勿論ニシテ深ク大
方ノ研究ヲ仰ク所ナリ

以上ノ四項ハ銀行建設ニ就テ必要ト信スル事
業上ノ目的ナリ第一第三ハ銀行通常ノ業務ニ
属スレバ第二ハ一種勸業銀行ノ業務ニ近ク第
四ハ寧口独立セル貯金銀行ノ事務ニ属セリ然
レ此此四ヶノ目的ハ統一セル一大銀行ノ下ニ
管理運営其妙用ヲ尽サレシヲ要ス
抑モ前ニ述フルカ如ク対清貿易ノ不振ハ已ニ
過去ノ問題ニシテ條約ハ優先ノ地ヲ占メ人心
ハ一轉シテ悵合親和ノ端ヲ示シ今ヤ正ニ開發
進取ノ時機ニ在ルモノニシテ新タニ開カレタ

ル各開港場ニ向テハ漸ク航海線路ノ開始ヲ見
ル今日ニ當リテ内地ニ在ル商工業者モ清國各
地ニ在ル本邦商民モ均シク不便ヲ訴ヘテ跋巡
スルモノハ實ニ金融機關ノ缺乏ニ在リ交通運
輸ト金融トハ相俟テ貿易ヲ開展スルニ必要不
可缺ノ機關ニシテ上海及香港ニ近口我正金銀
行支店ノ設ケアリト虽モ其方針業務ニ制限ア
リ此ノ如キ時機ニ當リ如此キ希望ヲ充タス
能ハス況ンヤ全清諸港ニ向テ固ヨリ一二商店
ノ能ク其用ニ應スヘキニ非ス別ニ一種ノ金融
機關ヲ建設シテ專ラ此經營ニ當ルノ切要已ム
ヘカラサルヲ見ル或ハ曰ク邦人ハ戦争ニ巧ニ

シテ商業ニ拙ナリト以テ対清貿易ノ前途ニ絶
望スルモノアリ是一ヲ知テニヲ知ラサルモノ
ナリ清人ハ經商ニ巧ニシテ工藝ニ拙ニ彼ハ資
本ニ富ニ我ハ技術ト經驗ニ^富驗メルカ如キ其巧
拙短長ヲ相補フテ經濟同盟ヲ為ス其大陸ノ
富源ヲ發シ其商工業ヲ進興スルニ於テ改米人
モ畏ル所ニ非ス否改米人カ五十年來拮据經
營抜クヘカラサルノ基礎ヲ作レルニ對シ追フ
テ而シテ之ニ駕スルモ亦甚々難事ニアラス余
カ曾テ熟籌精査スル所ニ由ルハ若シ其施設經
營ニシテ機宜ヲ悞ラズニハ十五年ヲ出テスレ
テ彼等ト對抗ノ實力ヲ作ルヲ得ハシ然リ而

メ之ヲ為サシニハ所謂日清兩國ノ經濟同盟
ヨリ他ニ道ナク日清兩國ノ經濟同盟ヲ為ス
ハ先ツ兩國ノ間ニ一大銀行ヲ起ス^{ヨリ始マル}其資本ハ且
シク一半ヲ本邦ニ一半ヲ清國ニ募リ政府ハ之
ニ向テ適當ノ保護法ヲ設ケ之ヲ我國家監督ノ
下ニ置クハ是レ實ニ清國ニ於テ銀行ノ信用
ヲ博スルニ缺クヘカラサレハナリ
望ム所ハ今ニ及ニテ國家カ一定ノ目的ヲ定メ
百年再ヒ得ヘカラサルノ機運ヲ活用シ兩國間
ニ完全ナル金融機關ヲ建設シ日清經濟同盟ノ
實蹟ヲ擧ケテ兩國民ノ聯絡ヲ厚フニ以テ東方
危急存亡ノ大局ニ應セラレ、ニ在リ

